

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立朝明中学校

校長 海戸田 恵一

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

保護者及び地域住民が一定の責任を持って学校運営に参画し、学校教育活動の充実に向け、学校、保護者及び地域住民が協働し、「学校づくりビジョン」の実現を図ります。

取組としては、地域理解・地域貢献学習を主軸とし、地域住民との連携を積極的に図って推進し、地域に関わる学習と地域と連携した活動を展開していきます。活動を通して、生徒が地域に対する関心を高めたり見直したりするなどして、郷土を愛する心を育むとともに自己の生き方を考える力を一層育んでいきます。

（1）活動内容

- ① 学校訪問、授業や行事の参観等により、教育活動への参画と評価を行い、学校を支援します。
- ② 地域の声を学校へ、教育活動の様子を地域へと情報の橋渡しをします。
- ③ 学校の教育活動を支援するゲストティーチャー等の必要な地域の人材や団体と学校の橋渡しをします。
- ④ 学校自己評価の結果や学校づくりビジョンに対する学校関係者評価をします。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

（1）教育活動の実践事例

① 生徒の活動・学力及び生活実態を把握する

本年度は運営協議会を3回開催しました。4月の第1回運営協議会では、校長よりビジョンや学校の取組、生徒の様子等を説明した後、各委員の方に、授業を参観していただきました。

2学期の第2回運営協議会は八郷小との合同会議を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。そこで、大矢知興譲小と合同で実施する予定であった3回目の会議に八郷小も来ていただき、3校合同で開催しました。共通のCS委員さんもあり、校区全体で話し合いを持ち大変意義深い会議となりました。本校の生徒の様子を参観いただいた他、小・中の教育の違い、地域とのかかわり方の違いなども確認する場になりました。中学校区あげての取り組みについての話題にも及びました。

体育祭・文化祭については、コロナの影響で委員の方や保護者に実際に参観していただけませんでした。ライブ配信で観ていただきました。

3学期の「総合的な学習の学習発表会」は参観いただいて、教育活動と生徒の様子を把握していただき、落ち着いた学習状況や学習環境に対する高い評価とともに改善に向けたご助言をいただきました。



② 地域の教育力を生かした特色ある教育活動

総合的な学習の時間を軸にして、各学年、教科や他の領域との関連を図った地域学習を実施しました。コミュニティスクールの取組も定着し、どの学年も前年度の活動を継承しつつ、一部取組内容を見直した計画を立てていました。しかし、新型コロナの影響により、校外施設への訪問や交流が難しく、また地域行事の中止も多く、活動が縮小されました。

それでも各学年で工夫しながら、地域の力と人材を生かしたさまざまな学習活動を行いました。以下に列挙します。

<1年生>

- ・ 専門家を招いた「くるべ古代歴史講座」（歴史館への見学・訪問は断念）
- ・ 北消防署分署を訪ねての防災学習・地域の方を招いた防災教室



<2年生>

- ・ 「マナー講座」
- ・ 「その道のプロに学ぶ」（職業体験の代替措置）

職業体験としての事業所訪問を断念したため、事業所の人に来ていただき、講話形式・簡単な体験形式での講座を実施



<3年生>

- ・ 地域清掃活動（県道64号、北勢バイパスの清掃活動）を実施



③ 学習発表会

2月22日に、各学年の生徒が、1年間、総合的な学習の時間などに取り組んだ内容についての発表会を行いました。

1年生は、地域理解学習で考えた「地域おこしプロジェクト」について、代表が発表しました。

2年生は、2学期の「マナー教室」や「その道のプロに学ぶ」で学んだことについて、グループによる実演なども交えながら、発表しました。

3年生は、熊野古道や伊勢・鳥羽での修学旅行の取り組みを通して学んだことを代表の班が伝えました。

発表会には、コミュニティスクール運営協議会の委員の方にも参観していただき評価していただきました。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

コミュニティスクールが定着し、数年前までは生徒が地域に出て活動したり、地域行事に参加したりしていましたが、新型コロナの影響で地域行事や各種の訪問・参加の機会が激減しました。

その対応策として、学校全体や学年単位で講師としてさまざまな立場の方にお越しいただき、お話を伺う機会を増やして対応してきました。

2学期末に取った学校教育診断の集計結果では、【特色ある教育課程の編成】の「総合的な学習の時間や行事等は特色ある教育活動を行っている（生徒：興味や関心を持って取り組める）」の設問で、生徒が3.5ポイント（昨年度より0.1ポイント上昇）、保護者が3.2ポイント（昨年度と同じ）と引き続き高い評価を得ました。

また、【保護者や地域の人たちとの連携】の項目では、生徒・保護者ともに3.2ポイントと生徒・保護者ともに昨年度より少し下がりましたが、引き続き高い評価を得ました。

さらに【情報受信の努力】は保護者が3.3ポイント（昨年度より0.1ポイント上昇）とコロナ禍において学校ができる限りの努力をしている評価をいただいている。

コロナ禍にあつて、学校教育に対する信頼は保たれているようであり、今後も、地域の方々や保護者の温かい支援のもと、地域に根差した教育の充実を進めていきたいと考えています。そして、活動形態を工夫し、できることを模索しながら最大限努力していきたいと思ひます。

3 今後に向けて

(1) 生徒の現状から見える課題

運営協議会の委員のみなさんから、「大規模改修で校舎も新しくなり、きれいな環境の中で子どもたちも落ち着いて学習に取り組んでいる。」「総合的な学習の発表会では工夫が見られ、子ども独自の視点があつてよかつた。特に3年生はやはり経験があり上手だつた」といったお褒めの言葉をいただきました。

一方、課題としては、協議会の中で「コロナ禍で制約が多く、タブレットの活用もあり、コミュニケーション能力が心配される」との話題が出ました。また、教員間でも「全員が自分からあいさつをできているとは言えない」という課題があります。

子どもたちのコミュニケーション力の向上を柱に据えた活力のあふれた学校づくりは今後目指すべき方向であると考えます。また、コロナ禍で2年間、さまざまな行事が中止になつたり短縮されたりしている現状を踏まえ、地域行事への参加も含めて、今後の方法を模索していく必要があります。

(2) 地域とともにある学校づくりの推進

今年度は、八郷小・大矢知興譲小の運営協議会と校区3校合同で運営協議会を開催することができました。小・中あわせた中学校区全体で、どのような学校づくりを目指すかを考えてい

く大きな一歩となりました。

今後も運営協議会を中心に、学校と地域の双方向の取組をより推進し、地域とともにある学校づくりを進めるとともに、子どもたちの生きる力を育んでいきたいと考えます。そして、コロナ禍である現状の中で創意工夫を凝らし、子どもたちのために、学校と保護者と地域が一体となって進めていきたいと思ひます。